

# 「第3回神奈川県支部吟行会」成績

日時 令和七年十一月三十日（日）

会場 ユニコンプラザがみはら

吟行地 相模原周辺

## 支部長賞

落葉食み山羊は平和を反芻す

宮崎 清美

水鳥の水尾遠ざかる喪あけかな

曾根新五郎

草罠のまま枯草となつてをり

長浜よしこ

## 大元祐子選

特選 八十年戦死無き国冬薔薇

猪俣 達夫

冬空に光の粒子未来都市

張本 弘子

基地に門出入り自在に冬の蝶

三幣美佐子

青春や落葉踏む足走る足

櫻井 波穂

はつ冬の風の中なる一樹かな

山田 蹤人

阿夫利嶺の赤一徹の冬紅葉

松倉 聖子

縄文の土器に汲み置く冬日差

澤井 誠一

ビルを縫うエスカレーター冬銀河

須田 聰子

冬たんぽはじめましてと集まり来

大江かずこ

裸木となりても銀杏大樹かな

吉田美佐子

## 鹿又英一選

特選 初めての街の日だまり冬すみれ

曾根新五郎

青空がからりと仕上げ冬木立

仲田 観夏

小春日やロマンスカーを見てゐる児

三浦 郁

首折れも腰折れもあり枯蓮

大坪 正美

踏む音の愉し落葉の吹き溜り

佐藤 公子

小春凧裏参道のラーメン屋

池田恵美子

葉の裏のまだなまめきて柿落葉

戸恒 東人

いたづらに深き青空冬薔薇

須田 節子

一徹に枯野を川の貫けり

太田 土男

冬草や川辺に赤き稻荷堂

杉浦 早苗

神谷章夫選

特選

首折れも腰折れもあり枯蓮

駅よりの回廊すでにクリスマス

蝙蝠は天地無用に枯れてゐる

入選

裏表わからぬ銀杏落葉踏む

八十年戦死無き国冬薔薇

その音とその香愉しみ落葉径

寒卵割るまだ生きるために割る

青頸の加はり鴨の陣らしく

宇宙食炬燼で食ぶる家族かな

どの嶺も相模晴れなり冬もみぢ

土生依子選

特選

語り継ぐ「はやぶさ」帰還牡丹鍋

落葉食み山羊は平和を反芻す

吹き抜けの聖樹をなぞる昇降機

入選

沼涸れて街となりゆく氏社

黄葉散る木もれ日の遺書風の遺書

縄文の土器に汲み置く冬日差

質間に返す質問冬木の芽

さがみ野のジユラ紀の地層霜の声

基地の門出入り自在に冬の蝶

一徹に枯野を川の貫けり

宮本素子選

特選

水鳥の水尾遠ざかる喪あけかな

基地門にきらめく聖樹兵に銃

草罳のまま枯草となつてをり

入選

青春や落葉踏む足走る足

一句捨て一句残して落葉道

子が散つて冬のブランコ置き去りに

散策の光分け合ふ落葉道

一徹に枯野を川の貫けり

大坪 正美

田坂 孝志

吉田 幸敏

高橋 翠

猪俣 達夫

三浦 郁

原 真砂子

宮崎美智子

藤田 直子

加野 庸子

井上 好子

宮崎 清美

加藤 和美

緑川美世子

曾根新五郎

澤井 誠一

平沢千恵子

小沢 真弓

三幣美佐子

太田 土男

曾根新五郎

三幣美佐子

長浜よしこ

櫻井 波穂

山田 跳人

田坂 孝志

大江かずこ

太田 土男

公園を駆けてはしゃがむ冬帽子

小春日やこの駅あの日の擦れ違ひ

岸波征美子  
北本佳子

渡部有紀子選

特選 小春日の賽銭箱にカップ酒

門馬佐代子

大温室曇れりバナナの葉の充ちて

杉林明子

草罈のまま枯草となつてをり

長浜よしこ

入選 阿夫利嶺の赤一徹の冬紅葉

松倉聖子

小春日や卵の黄身のぶつくりと  
帰り花母校に見覚えなき石碑

赤羽ウキハ

ベビーカーの風船ますぐ神迎

なつはづき

小春日や森の奥より斧の音

藤川三枝子

宇宙食炬燵で食べる家族かな

宮本登美江

消毒の瓶の白さや冬の歯科

藤田直子

小川彰一